

調査研究推進委員会 調査研究推進セミナー

「実践研究のすすめ—社会的文脈を踏まえた教育実践を目指して—」

開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

日時：2023年11月26日(日)12:10~12:50

場所：山形テルサ(山形県山形市双葉町1-2-39)

参加者：41名

調査研究推進セミナーは、日本語教育における調査研究活動の推進と研究倫理の質の向上を目的としています。この度のセミナーは、実践研究に焦点をあて、実践研究についての理解を深めるとともに、実践研究を行う際に注意すべき事柄や研究倫理について学び、調査研究活動に活かすことを目的に企画されました。昼休憩の時間にもかかわらず、41名の方にご参加いただきました。

三代純平氏を講師に迎え、実践研究とは何か、実践研究のサイクルと実践研究の意義、ご自身の実践事例「にっぽん多文化共生発信プロジェクト」、そして、研究倫理についてご講演をいただきました。ご講演のなかで述べられた「日々の実践を報告、共有することが実践研究である。」という言葉は印象的であり、参加者の多くに教育実践の重要性を再認識させるものでした。また、実践研究を報告、共有することの意義は、実践に関わる当事者同士をつなぐことだけでなく、問題意識を共有する他の実践研究者へと実践研究共同体の輪を広げていくことにもあるというお話は、本学会の意義についても考えさせるものでした。また、真に日本語教育の発展に寄与する研究や論文とは何か、知として教育実践に資する実践研究およびその論文の意義について考える機会ともなりました。ご講演を通し、多くの学び、気づきが与えられ、たいへん充実した中身の濃い時間となりました。

参加者に対するアンケートにおいても、「実践研究について、多くの気づきをいただいた。」「講演で紹介されていた文献を読みたいと思う。」など、本セミナーが参加者の今後の調査研究活動に活かされることを窺わせるコメントをいただきました。

この度のセミナーを通し、実践研究への理解が深まるとともに、実践研究への関心と実践への意識が高まったものと思われます。今後も、実践研究がさまざまな立場の方々に広く普及していくこと、また教師間で「実践の知を共有」し、多様な教育実践のなかに共通性を見出し、より良い教育実践に向けて課題解決に共に取り組む共同体が構築されることを期待します。

(文責：調査研究推進委員会)